

令和元年度

提言書



小浜商工会議所青年部

はじめにー小浜商工会議所青年部（小浜YEG）が提言に取り組む意義ー

私たち小浜YEGは、昭和60年の創立以来、自己啓発と相互研鑽に努め、また地域の青年経済人としてまちづくりに携わってまいりました。単会での定期的な例会のほか、地域のイベントへの協力、日本商工会議所青年部や近隣地域との交流も活発に実施しております。

平成27年、小浜YEG創立30周年の節目に当たり、我々は全メンバーで協議し「小浜YEGビジョン・30周年宣言」を策定しました。そのなかで、「まちづくりに積極的に貢献し、自らの考えを発信する」、「青年部ならではの問題提起を行い、若狭小浜の地方創生の一翼を担う」ことを今後の指針として決めました。

いうまでもなく商工会議所の本来の役割の一つに、商工業者としての意見を行政に具申することがあります。商工会議所活動の一翼を担う我々としても、その特性を活かし実際に政策提言をしていきたいとの考えに至り、メンバー間での多くの議論、先進的な取り組みをしている全国のYEGの事例の研究、行政や関係機関からの情報収集などを行ってまいりました。検討に当たっては、幅広く会員から意見を募ること、提言するだけでなく小浜YEGとしての関わり方を考えることに留意し、今回初めてとなる提言を別紙のとおり取りまとめました。

令和2年3月現在、小浜YEGの会員数は75名となり、当地域でも有数の会員規模を誇る団体となりました。会員規模や多様性を活かし、今後も地域に欠かせない組織であるべく活動を続けてまいります。

我々の提言がこの地域の持続的な発展の一助となれば幸いです。

令和2年3月30日



小浜商工会議所青年部

令和元年度会長 中野貴之

提 言

1. 小浜を巣立つ君たちへ

～ふるさとからの情報発信プロジェクト～

2. キャリア教育事業・職業体験事業の充実を図る

～おしごとザウルスを盛り上げよう～

3. 市民体育館を使いやすく！多様なニーズの受け皿に

4. 子育て世代に優しいまちづくりの推進

提言 1

小浜を巣立つ君たちへ ～ふるさとからの情報発信プロジェクト～

1. 現状と課題

当地で育った子どもたちの多くが進学や就職の為、小浜を巣立っていきます。

小浜市では、公式の Facebook や Twitter が運営され、情報発信がされています。しかし、ふるさとを離れた方が、どれだけそれらに触れているかは分かりません。小浜の情報にほとんど触れることがない生活を過ごし、そのため徐々に地元と疎遠になっていく方も多いのではないのでしょうか。

小浜を巣立つ子どもたちに将来のUターンを促すためにも、より直接的で効果的な情報発信の手段を確立していくことが課題と考えます。

2. 提言内容

- ▶ ふるさとを離れる方、離れている方にターゲットを絞った SNS (例: LINE 公式アカウント、Twitter、Instagram、YouTube) 等やアプリなどを整備し、小浜市内の高校や大学の卒業時、成人式の際などに登録を促す。これを通じて、ふるさと情報を継続的にプッシュ型で発信する。

送信する情報については、実際にアンケートなどでそれらの方が必要としている内容を把握する他に、下記を想定している。

- ①地域の話 同窓会や母校の話、イベントや店舗情報、当地を紹介するテレビ番組、当地出身者のスポーツや芸能界での活躍など
- ②Uターンに関連する情報 小浜周辺の就職求人情報、地元で起業する際の補助金
- ③その他、ふるさと納税、北陸新幹線の工事進捗状況

- ▶ 加えて、民間の方が当地の情報を独自に発信している SNS が複数あり、それらの集約や相互リンクも設定する。

3. 効果

情報を継続的に発信することで小浜に関心や帰属意識を持ち続けてもらい、どこで暮らし、どのような人生を送っていても、小浜の応援団であってもらうことに繋げる。

また、就職活動の時期や年齢などで情報発信のタイミングを絞ることにより、就職や人生の転機で、選択肢としてUターンを考えるきっかけとなることも期待できる。

4. 小浜 YEG の関わり方

- ・小浜のイベントや企業情報、求人情報など情報発信母体の一つとなる。
- ・県外にいる小浜出身者とのコラボレーションによるビジネス展開やイベントの開催。

提言 2

キャリア教育事業・職業体験事業の充実を図る ～おしごとザウルスを盛り上げよう～

1. 現状と課題

小浜 YEG は平成 30 年度、令和元年度に『おしごとザウルス』と題し、市内の小学生を対象に職業体験事業を実施しました。これは子どもたちに様々な職業があることや、働く大変さや喜びを伝え、職業意識を高めることを目的としたものです。また、地元企業を知ってもらい、将来の小浜定着へのきっかけや小浜の良さを伝えたいと考えています。平成 30 年度には 100 名、令和元年度には 118 名の小学生らが参加し、様々な体験を通してしごとに触れ合っていました。

参加者や保護者からは好評を得ており、継続的な開催を求められているものの小浜 YEG メンバーだけでは活動や予算の負担が大きいのも現状です。子どもたちにより多くの職業を知ってもらう為、社会を学んでもらう為には、今後、より行政との連携を深め、公的事業や民間事業を体験できる事業に展開していくことが必要と考えています。

2. 提言内容

- ▶ 予算（補助金）の充実を図り、参画企業の経費負担を軽減することで積極的な出展を促し、商材や資材を採り入れたより実践的な体験も可能となり、イベントの効果を高め、継続的な事業実施に繋げる。また PR も拡充する。
- ▶ 行政の協力を得て、民間だけではなく、行政分野の職業体験事業を加えることにより、子どもたちが社会構造の理解を図り、行政サービスの必要性を感じられる事業にする。
- ▶ 教育委員会やキャリア教育推進協議会と連携し、授業カリキュラムの一つとして活用していただく。

3. 期待される効果

- ・学校教育と連携した職業教育の実施により、子どもたちが自身の将来や地域のことについて、より深く考える機会となる。
- ・参画企業、団体が増えることにより、子どもたちの興味により細かく応えることが可能となる。
- ・この地域にも多くの企業、職業があることを子どもたちに知ってもらうきっかけとなり、将来の選択肢として地元就職の効果が望め、小浜で暮らす可能性や優先順位を高めてもらうことに繋がる。
- ・企業間、業界、各種団体の協力で地域の宝である子どもたちを育て、オール小浜の一体感を醸成し、活力ある小浜のまちづくりに繋がる。

4. 小浜 YEG の関わり方

- ・現在の事業ノウハウを提供するとともに主体的な企画運営を行う。
- ・当会の人脈を活かした参画企業の募集や他団体との連携、リーダーシップの発揮。

提言 3

市民体育館を使いやすく！多様なニーズの受け皿に

1. 現状と課題

新幹線嶺南（敦賀）開業を控えるなか、イベント等の開催機会が増すことが期待されます。

現在小浜では野外でのイベントは多く実施されていますが、屋内でのイベントの開催は、いわゆる「箱」の問題で規模に制限がかかっているのが現状です。小浜市民体育館は、市内最大規模の屋内施設であり、開業後の多様なイベント等の受け皿一つとして、ハード面、ソフト面でのより一層の利便性の改善をしておくことが課題であると考えます。

小浜 YEG では令和元年 11 月に『おしごとザウルス』という職業体験事業を市民体育館で行いました。この事業を運営していくなかで市民体育館の利用には、①駐車場が少ない、②下駄箱や収納、パーテーション等の備品が乏しく室内に誘導しにくい、③フロアマットは用意されているが重くて汚れや損傷が目立つ状態、④気温調整ができない、等々の問題があることを感じました。

2. 提言内容

- ▶ スポーツ事業だけでなく物産展、展示会等の産業施設として使えるように設備を整える。（火器使用禁止などの規制緩和、衛生施設の充実、軽量パーテーション、軽量テント、フロアマット巻取機、フリーWi-Fi など）
- ▶ 周辺の市施設駐車場との連携。駐車場案内備品の充実を図る。
- ▶ インターネットで利用状況の閲覧や予約ができるようにする。
- ▶ 市民体育館にネーミングライツによる愛称を付けイメージ改革をする。市民に公募し、市民一体となって考えることで愛着を深める。

3. 効果

- ・ 体育館の利用率アップにより使用料収入を増やし、その収入で設備等を購入する好循環を促す。
- ・ スポーツ事業だけでなく使用方法が定着化することで、市民の活動意欲を刺激する。
- ・ 北陸新幹線小浜開業時にコンベンション（会議、展示会、見本市）シティを目指す。その調査および運営のデモンストレーションとしての活用。
- ・ これまでにない多様なイベントの受け皿となることで、交流人口の増加に繋がる。これによる市内外の産業の活性化。地元企業の宣伝や県外企業の受入れ。

4. 小浜 YEG の関わり方

- ・ 体育館でのイベント運営経験・実績を活かした紹介活動、誘致。
- ・ YEG や会員企業、その他所属の団体等で率先して体育館を活用して、利用方法や課題を示す。

提言 4

子育て世代に優しいまちづくりの推進

1. 現状と課題

日本の人口減少が進んで行く中、地域にとっても労働力の確保は喫緊の課題であり、働きやすい環境を整えることが求められています。

特に子育ての時期には、出産を理由に退職しても復職しやすく子どもを安心して預けられる環境の整備、男性の家事・育児参加の定着等が必要な課題になっています。

しかしながら、これらの問題には民間企業が対応するには抱える負担も多く、行政と連携し取り組んで行かなければ現状から変わることができません。

様々な価値観や、ビジョンの違いがある中で、選択肢を与えられる街づくりが豊かな生活を送るために必要なのではないのでしょうか。

「子育て世代に優しいまちづくり」が、小浜の明るい未来のために欠かせないと考えます。

2. 提言内容

- ▶ 就労時間の柔軟な制度、保育支援、休暇支援等が充実した企業を、市が「子育て世代に優しい企業」として表彰する制度を設け、企業の意識を高める。小浜市独自のKPI（目標評価指数）を設定する。
- ▶ 男性の育児休暇・看護休暇取得の公的支援条例の制定や、取得者をロールモデル的に広報宣伝することにより男性の育児参加を促す。またそれをチャンネルOや小浜市 Facebook、Twitterなどで紹介し定着させる。
- ▶ 在宅ビジネスの支援。在宅ビジネスのマッチング窓口を設けて、子育て世代の在宅で働きたいという需要を満たす。

3. 効果

- ・雇用する側と働きたい側のギャップをうめ、新たな雇用機会を創出し、あわせて生産性を向上させる。
- ・対外的にPRすることで県外、市外からの子育て世代の流入、移住を促す。
- ・市民の選択肢の増加、イメージ改革。「子育てしやすいまちづくり」の風土醸成。

4. YEGの関わり方

- ・会員企業の率先、積極的参画。
- ・新しい働き方、社労福祉などの研修参加や企画・運営。

小浜商工会議所青年部の提言への取組

- 平成 30 年 7 月 25 日 7 月例会「はじめての提言~it's my proposal」
会員が事前に考えてきた政策提言案についてグループワークで議論し、発表を行いました。
- 平成 30 年 10 月 23 日 10 月例会「わたしたちの政策提言~It's Our Proposal Policy~」
日本商工会議所青年部政策提言委員会の高久委員長（秋田県・湯沢 Y E G）を招き、我々が政策提言に取り組む意義や、他 Y E G の取り組み事例について学びました。
- 令和 1 年 9 月 27 日 9 月例会「小浜の街に革命を~新幹線敦賀(嶺南)開業に向けた政策提言~」
市役所職員を講師に招き小浜市が策定した「御食国若狭おばま北陸新幹線敦賀開業アクションプラン」について学びました。
- 令和 1 年 10 月~ 政策提言ワーキンググループ活動開始
これまでの取組をもとに、有志による提言作成を開始しました。
- 令和 1 年 12 月 14 日 日本 Y E G 政策提言勉強会「郷創塾」
日本 Y E G 事業として各地の取組についてインターネット配信され、オンラインで参加しました。
- 令和 2 年 1 月 31 日 小浜 Y E G 新春例会
正副会頭、小浜 Y E G O B、会員に対して政策提言案を発表。
- 令和 2 年 3 月
小浜商工会議所正副会頭会議、議員総会にて報告
小浜市長に政策提言書を提出

小浜 YEG 政策提言ワーキンググループ		
リーダー 下林祐紀・杉谷将典		
メンバー	伊勢昌平	井上賀雄
今川彩友美	岩崎正洋	岩田修也
上野仁将	清水良憲	鳥羽英莉
中野貴之	西良徳	橋詰春輝

小浜商工会議所青年部事務局
住所：小浜市大手町 5 - 3 2
TEL:0770-52-1040 FAX:0770-53-3567